

保健通信

平成26年2月26日
益田翔陽高等学校 保健室

素早い現場判断命を救う！！

部活中倒れたらAED

- 突然、心停止となった場合、『死戦期呼吸』と呼ばれるゆっくりとあえぐような呼吸や『けいれん』が認められることがあります。突然、目の前で卒倒し、いつもと様子が違う呼吸やけいれんを認めた場合、『心停止の可能性』を疑い、行動を始めることが重要です。
- 心停止ではない人に、胸骨圧迫を行ったりAEDを使用したりしても、大きな問題は起こりません。『死戦期呼吸』や『けいれん』の判断ができない場合や、自信がもてない場合は、胸骨圧迫とAEDの使用を開始します。

目の前で誰かが突然倒れたら

～迷わず、落ち着いて～

反応（意識）は？ 普段どおりの呼吸か？

なし / わからない



応援要請

救急車要請

AED手配

胸部圧迫とAED

事例1

昨年の2月にある県立高校のAさんが体育館で倒れました。Aさんは8カ月前に受験勉強のためバドミントン部を引退しました。大学に合格し、徐々に練習へ参加しました。「なんかふらふらする」「気持ち悪い」と話すAさんに部の顧問はてんかんを疑い、既往症確認のため外部指導者に指示してAさんの携帯電話で保護者に電話しようとしたが、ロックがかかっておりできなかった。その間にAさんはけいれんが2回続けて起きた。倒れてから23分後、救急隊が到着しましたが、AEDは使用されなかった。救急隊が来る前にAさんは心肺が停止していた。そしてAさんは4月に亡くなった。

事例2

2011年9月、ある市の小学校6年生のBさんが、駅伝の課外練習中に倒れ、救急搬送された後、翌日亡くなりました。

この事故では、Bさんが倒れた当初、現場で指導していた教員等が「脈がある」「呼吸がある」ととらえたことから、心肺蘇生及びAED装着を実施しませんでした。約11分後の救急隊到着時には心肺停止状態になっていました。このことから、対応が適切であったか、また緊急時の学校の危機管理体制が十分であったかなどが検証課題となりました。

「立ひざになったり、声を出したりしていることを考えると、心停止とそうでない状況を行ったり来たりした可能性がある。AEDは使用の必要性がない場合は作動しない。心停止かどうかの判断をサポートしてくれる器具という認識を持って欲しい。」

京大健康科学センター准教授 石見 拓氏

「傷病者発生時における判断・行動チャート」

